

2025年2月実績概要（メモ）

（2025. 3. 19）

オレフィンの需要が限定されつつある中、誘導品の生産ではポリエチレンが増産。

1. 生産動向

イ) エチレン 407, 800トン

前月比 ▲12.5% (▲58, 200トン)
 前年同月比 ▲9.0% (▲40, 300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲9.7%	▲3.4%
定修要因等	+2.5%	—
能力増減	—	—
稼働率変動	▲5.3%	▲5.6%
生産増減率	▲12.5%	▲9.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月80.6% → 当月76.0% ← 前年同月80.7%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少を主因に LDPE、PP、SM、塩ビモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がマイナス。PS、EOなどの3品目のみはプラスとなった。

前年比は、日数減とともに定修規模差や稼働率要因等から、PP、PS、SM、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの12品目がマイナス。LDPE、HDPE、MMAモノマーなどの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少とともに定修規模差もあり、LDPE、HDPE、PPのポリオレフィン3樹脂はマイナス。PSのみはプラスとなった。

前年比は、日数減に対し稼働率要因等が合わさり LDPE、HDPE はプラス。PP、PS はマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、前月に比べて暮らし向き、収入面や耐久消費財の購入において下向きの傾向が出ており、足踏みの状態が続いている。国内の生産活動は、1月は自動車産業等で上昇の動きが見られたが、電子部品、情報通信機械等は低下みられ、鉱工業全体ではマイナスとなった。2月の予測では、生産用機械を中心に増加が見込まれているほか、生産活動のトレンドも僅かながら上向きの動きが出はじめている。

汎用樹脂の出荷は、年始休暇に伴い出荷が減少した前月に対し、当月は、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂でプラスとなった。また、前年比は、LDPE、HDPE、PPはプラス、PSのみがマイナスとなった。分野別の出荷状況では、包材関係は、前年比で LDPE、PP、PS が前年を下回ったが、HDPE は大きく前年を上回る出荷となった。また、包材以外の分野では、前年比で、LDPE のラミネート分野、HDPE の中空成形分野、PP の射出成形分野、繊維分野、PS の雑貨・産業分野などでの増加分野が増えつつある。

ハ) 輸出

前月の輸出が旧正月休暇影響、通商上の先行き懸念もあり、大きく減少が見られた。当月は、前月比で、LDPE が大幅な増加となったほか、HDPE、PP ともにプラスとなった。前年比では、LDPE のみはプラスだが、HDPE、PP、PS はマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP で減少し、HDPE、PS は若干増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE は低下、PP は前月並み、PS は上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PS は高めの傾向、PP はほぼ適正範囲内となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LDPE	▲10, 400	3.6	3.3
HDPE	+6, 100	3.9	3.8
P P	▲12, 300	3.0	3.0
P S	+6, 400	1.6	1.9